

会長あいさつ

伊藤 節夫



夏になると、街路樹から賑やかなセミの声が響いてまいります。あの声を聞くと、「今年も夏が来た」と感じる方も多いでしょう。しかし、セミの一生を知ると、その鳴き声の裏に、実は長く静かな時間が流れていることに気づかされます。本日は、

セミの一生を通して、生き方について少し考えてみたいと思います。

セミの命は、地中での長い幼虫期と、地上での短い成虫期から成り立っています。私たちが目にする成虫の姿はわずか2～3週間ですが、幼虫として土の中で過ごす時間は1年から5年にも及びます。つまり、セミの一生の大半は、誰にも見られない暗い土の中で、ひたすら成長する時間なのです。

私たちの人生にも、これと似た側面があります。私たちが何かを成し遂げるとき、その成果が人の目に触れるのはほんの一瞬です。しかし、その裏には、誰にも見られない努力や準備、悩みや試行錯誤が積み重なっています。セミが長い地中生活を経て、ようやく地上に出てくるように、私たちもまた、目に見えない時間の中で自分を育てているのだと思います。

夏が来ると、セミの幼虫は地上へ出て、木を登り、背中を割って羽化します。白く柔らかい体がゆっくりと固まり、色づき、成虫としての姿を整えていきます。暗い時間帯に羽化するのは、外敵から身を守るためです。静かな夜の中で、セミは自分の人生の「本番」に向けて最後の準備をしているのです。

人間にも、こうした「羽化の瞬間」があります。新しい仕事に挑むとき、家族を支える決意をしたとき、あるいは地域のために一歩踏み出すとき。周囲には見えないところで心を整え、覚悟を固め、ようやく一歩を踏み出す。その姿は、まさに羽化を終えたセミのようです。

成虫になったセミは、短い時間を全力で生きます。オスは力強く鳴き、メスは次の命をつなぐために産卵しま

す。わずか2～3週間という限られた時間ですが、その中で自分の役割を果たし、命をつないでいきます。

私たち人間の人生は、セミよりずっと長いものです。しかし、限られた時間の中で自分の役割を果たし、誰かのために力を尽くすという点では、セミと同じです。ロータリーの奉仕の精神もまた、「短い時間をどう生きるか」という問いに通じるものがあります。

セミの声を聞くと、私たちはその背後にある長い準備の時間、そして短い本番の時間を思い浮かべることができます。自然の営みは、私たちに多くのことを教えてくれます。「見えない努力があってこそ、見える成果がある」「限られた時間だからこそ、役割を果たすことに意味がある」セミの一生は、そんなメッセージを静かに伝えてくれているように思います。

セミの一生と人間の生き方を重ね合わせてお話しさせて頂きました。セミの声を耳にしたとき、少しでも自分の人生の歩みを振り返るきっかけになれば幸いです。

7月度刈谷 RC ゴルフ例会

令和8年7月16日(木)

於：三甲ゴルフ倶楽部 京和コース

成績	氏名	G	H	N
優勝	塚本 幸夫	84	15.0	69.0
2 位	盛田 豊一	78	7.8	70.2
3 位	中島 亮	87	15.6	71.4
B B	中林 久美	113	34.8	78.2



懇 親 会



挨拶



乾杯





歓談



歓談



アトラクション



アトラクション



手に手つないで